石巻専修大学特集

「石巻専修大学」ホームページ http://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

代表電話番号
0225
(22)7711

地域社会の発展支える

東日本大震災から5年目を迎え、5月30日にはJR仙石線が全線開通するなど、石巻専修大学を取り巻く環境は大幅に改善された。自然に恵まれたキャンパスで学生はどんな学びと出会えるのか、坂田隆学長と3学部の学部長に伺った。

坂田　隆学長

1年次からインターンシップ体験

対面教育で学生の成長に期待

今年度からキャリア支援の一環として1、2年次生のインターンシップを全学部で始めます。社会に出て働くとはどういうことか、早いうちにイメージできれば学ぶ姿勢が変わります。ボランティアもそうですが、参加すると学生は自分の未熟さを思い知り、勉強する必要性を悟ります。全員参加とはいきませんが、企業やNPO法人などと調整し、就業力の向上につなげたいと思います。

東日本大震災以降、数多くの企業や団体、自治体の関係者と顔の見える関係を築けたことは本学の大きな財産です。そこから公開講座の「復興ボランティア学」が生まれ、インターンシップの受け入れへと発展しました。さまざまな人的ネットワークを築いて奮闘した先生方の授業は、学生に多くの気づきを与えています。

地域との関わりの中で学生は成長します。年次が上がると、勉強したことが役に立つ場面が増えます。簿記の資格を持つ学生たちはあるNPOの経理を引き受けました。会計処理を支援した企業から信頼され、学生が経理のアルバイトをすることになったゼミもあります。

また、自動車工学コースの学生はボランティア団体の車両を年2回、整備しています。2日間で多種多様な車両60台を整備することは、奉仕であると同時に技術を磨く貴重なチャンスです。相互の利益となるこうした新しい教育がだいぶ根ざしてきました。

インターンシップのほか、本学らしい課外活動をつくろうと昨年度からスポーツ推薦入試を導入しました。「学業とスポーツを両立させる強い意思を持った人」が対象で、限界に挑戦する姿が石巻専修大生としての一体感や大学への帰属意識を高めてくれるものと期待しています。

入試制度ではもう一つ、従来の被災者向け奨学金制度を一般に広げた、特待生入試を実施しました。本学での勉学を強く希望する、向学心旺盛で一般学生の模範となるような優秀な方に高等教育の機会を提供するもので、志ある7人の学生が入学しました。人格的にも優れた諸君が周りに良い影響を与え、本学の将来を担う存在として育ってくれることを願っています。

本学は、教員と学生の距離が非常に近い大学です。教員は一人一人の学生と向き合い、研究に対する真摯な姿勢を間近で示すことができます。石巻専修大学の魂は、目立たないところでもひたむきに力を尽くす人を社会に送り出すことですが、それはこうした対面教育によって学生に伝わると信じています。

この社会は農業や漁業、林業など第1次産業を支える地域がなければ成り立ちません。本学は地域社会の持続的な発展を、文理両面から支える大学でありたい。石巻で見聞を広め、経験を積み、日本中、世界中の地域社会を支える学生をこれからも育てます。

（専門は比較栄養生理学）

吉原　章　理工学部長

「理」と「工」を掛け算で

理工学部は「理」とみ出す可能性を秘めている「工」を掛け算することによって新しいものを生ます。「理工」は別々のものではなく、一体と考えるべきでしょう。

「もの作り」と「自然」。本学の理工学部の基本は、この二つの心を学ぶところにあります。

食環境学科、生物科学科、機械工学科、情報電子工学科で構成され、生命の根源から最先端工学技術までをカバーしています。4学科の性格はそれぞれ異なりますが、有機的に結びついており、掛け算によって学生一人一人の学びの成果が広がっていきます。

座学と身体を動かして学ぶ体験型講義が伝統的な教育スタイルで、実習、実験を重視した実践的なカリキュラム編成、多彩なフィールドワークを行っています。

魅力は学生との対話を重視し、教員1人に対して学生4人という少人数教育です。研究室でも日常でもお互いの「顔がわかる」環境です。専門教育とともに幅広い視野と、柔軟でバランスの取れた思考力を養うべく人間教育にも力を入れています。

（専門は物性物理学）

2011年の震災の被害を私たちは乗り越えてきました。「もの作り」の根本を問い直し、自然の驚異を学び、〝心〟とともに技術を身につける。

いまこそ、人材を育てることが大切だと実感しています。石巻から巣立って地域復興や活性化に寄与する学生たちを育てること。それが大きな社会貢献につながると確信しています。

（専門は物性物理学）

湊　信吾　経営学部長

多様な社会への対応力

経営学部は社会の多様かを軸に、地域振興、起性に即した学部です。会業家活動、観光開発、情社や組織をどう運営する報発信、簿記・会計、情報処理、統計学など多様化する経営に対応した講義を展開しています。

ボランティアの活動状況を追う教員の研究は「復興ボランティア学」という全学的な取り組みになっていますし、サバだしラーメンに続く新開発の「ずるびきあんかけパスタ」を東京のイベントに出品したり、学生がラジオ番組や映像作品を制作したり、石巻港に入港するクルーズ客を歓迎イベントでもてなしたりと、学生の集中力が増して驚いています。しかもけっこう勘が鋭い。受け身で講義を聞く授業では得られない達成感が、自信につながる効果を実感しています。

経営には自分をマネジメントすることも含まれます。社会に出て「自分に合わない。ミスマッチだ」と会社を辞めるのは簡単ですが、それは幅の狭い考え。狭い見方でとらえると選択肢が少なくなります。

決めつけず、受け入れる。人の意見を聞き、議論を深めて問題の本質をとらえ、解決法を探る柔らかい発想の学生を育てます。（専門は情報処理システム）

山崎省一　人間学部長

人間への理解を深める

人間学部（人間文化学科と人間教育学科）は人です。人は素晴らしい、社会は面白いと実感することが第一歩。学生は演習や実習で文化施設や教育・福祉などの現場にふれ、地域の特性を認識し、課題解決力を養います。

目指す進路は小・中・高校の教員、保育士や幼稚園の先生、学芸員、公務員など。心理学関連の科目を履修すれば認定心理士の資格が得られ、人間への理解を深めることができます。人間教育学科には、授業見学や行事の手伝いなどで学生を受け入れてくれる協定校が多数あり、子どもと接する機会が多いのも特長です。

学部創設から3年、人間教育学科では1期生の教育実習が始まりました。「後輩に自分の経験を伝えたい」と申し出る学生もいて、学科全体で成長しようとする姿を頼もしく感じます。

お祭りはなぜ人をワクワクさせるのか。昨年から石巻川開き祭りに学部として参加し〝調査・研究〟しています。自分たちが楽しみ、盛り上げることも、企画や運営を学ぶことも両方大事。地域づくり」に携わる学生にとって発表の場になることを期待しています。

どんどんアイデアを出し、試行錯誤する。学生の特権です。一方で、しっかりと計画し、リスクを回避する慎重な対応や判断力も身につけてほしい。入学した時より知的、精神的、身体的に健康でバランスの取れた人となるよう、応援します。（専門はスポーツ生理学）